

礼拝の復活

キー・ヴァース"主の宮の土台が築かれたので、民はみな大声をあげて主をほめたたえた。"
エズラ記3:11

厳選された聖典
エズラ記3:1-6,10-13

エズラ記に記されている出来事は、イスラエルの地が荒廃し、イスラエル人がバビロンに捕囚された70年の終わりに起こった。その頃、ペルシャ王キュロスは、神が彼に地上のすべての王国を与え、"エルサレムに神殿を建てる

"ように命じられたと宣言した。その結果、キュロスはユダヤ人捕囚がイスラエルに帰還し、"イスラエルの神、主の神殿を再建する

"ことを許可する布告を出した。エズラ記1:1-3

帰還したユダヤ人の最初の仕事は、モーセの律法に書かれているように、燔祭をささげる祭壇を築くことだった。帰還2年目には、「神殿の基礎（

）」が建設された。主はいつくしみ深く、その慈しみはイスラエルに対してとこしえに続くからである。...主の家の土台が築かれたからである」。エズラ記3:2-6,8-11

喜びの声もあれば、涙を流す声もある。ある者は喜び、ある者は泣いた。時をさかのぼり、ソロモンの壮大な神殿を心に思い浮かべた人々は、それに比べて現在の神殿のちっぽけさを思い、涙を流した。(12,13節)。同じように、今日、主に従う者たちの中にも、未来に向かって喜ぶべきなのに、過去を懐かしんで泣いたり、打ちひしがれたりする者がいるかもしれない。パウロの勧めは、"過去を忘れ、前途にあるものを待ち望みなさい

"というものだ。(ピリピ3:13)。私たちは一日一日、自分のためだけでなく、全人類のために、すべての望みの実現に一日一日近づいていることを心に留めよう。

私たちは、過去の罪や欠点から学んだ教訓を決して忘れてはならない。"主の懲らしめ

"や、そのような経験によって正しく "鍛えられる"ように努力することもその一つである。(ヘブル12:5-

11) 。というのも、「父の前におられる私たちの弁
護者は、私たちの罪のために個人的な贖いをしてく
ださった義人イエス・キリストです。(第1ヨハネ2:
1,2; 1:7-
10) 。私たちは、"神の天の召しという賞を勝ち取
るために、目標を追い求め続けなければなりません
。"ピリピ3:14

ある意味で、エズラ記に記されているこの場面は、
ハルマゲドンが終わって間もなく世界で起こる状況
や出来事を示しているのかもしれない。その時、神
への信仰を持つ少数の人々が神の方を向き、地上の
新しい状況や取り決めに喜んで受け入れるだろう。
やがて、昔のイスラエルが霊的な神殿を通して主に
近づいたように、全人類が神に近づくようになる。
黙示録21:1-4

地上の人類は、天の父の大いなるいつくしみ、あわ
れみ、愛を賛美し、感謝する。(詩篇136:1) 。「終
末の日には、主の家の山はすべての中で最も高く、
地上で最も重要な場所になる。それは他の丘よりも
高くなり、世界中から人々が礼拝のためにそこに流
れてくる。
、多くの国から人々がやって来て言う。『さあ、主

の山、ヤコブの神の家に登ろう。そこで主は私たちにその道を教え、私たちはその道を歩む。主の教えはシオンから、主のことばはエルサレムから出るからである」。イザヤ書2:2-4